

講義名	課題演習(経営管理)			授業形態	
担当教員	柿沼 英樹	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

経営管理分野における修士論文の執筆を念頭に置いて、研究テーマや問いの選定、文献レビューの実施、研究計画の策定についての解説と演習を行う。解説部分では、基本的な考え方や手法について、実例を交えて紹介する。解説内容にもとづいた作業にも取り組んでもらう。演習部分では、自らの問題意識を起点として取り組んだ研究活動の過程・結果を各履修者に報告してもらい、その内容にもとづくディスカッションを行う。

到達目標

- (1) 学術研究の読み方・書き方の基本を押さえた研究活動を計画し、自主的に進めることができる。
- (2) 自身の問題意識を具体的な研究上の問いに結びつけることができる。
- (3) 他者の研究を批判的に検討することができる。

提出課題

- (1) 授業内にて、自らの問題意識にもとづいた研究報告を実施する。報告の詳細は、履修者の人数等によって調整する。
- (2) 授業全体のまとめとして、今後の研究計画についての期末レポート課題を実施する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

- (1) 授業内での研究報告については、報告後にその場でフィードバックを行う。
- (2) 期末レポート課題については、第15回授業にてフィードバックを行う。

評価の基準

- (1) 授業への貢献度 20% + 授業内での研究発表 30% + 期末レポート課題 50% で評価する。
- (2) 授業への貢献度は、発言の回数や内容、授業内で課すワークの結果などにより総合的に評価する。
- (3) 欠席回数が5回以上の場合、および期末レポート課題が未提出の場合は、単位を付与しない。

履修にあたっての注意・助言他

- (1) 「論文作成方法論研究」を修習して履修することが望ましい。
- (2) 調査データの分析手法をより詳しく学ぶために、「統計的方法論研究」や「定性的方法論研究」の履修を推奨する。
- (3) 経営管理に関する基礎知識の学修は、各自で取り組むこと。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.基礎からわかる 論文の書き方。	小橋英二	講談社	1320	9784065280867
.心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 改訂版。	浦上昌則・脇田貴文	東京図書	3080	9784489023491
.マネジメント研究への招待。	須田敬子	中央経済社	3300	9784502296116

その他

- <講義資料>
(1) 教員による解説部分の資料は、事前にPDFで配布する。各自で準備・活用すること。教室内での印刷物の配布は原則として行わない。
(2) 履修者による研究報告は、事前の資料共有を義務づける。報告者以外の人は、授業前に通読しておくこと。詳細は、別途案内する。
- <その他参考文献>
入山盛栄 (2019) 『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。
服部泰宏 (2023) 『組織行動論の考え方・使い方 第2版』有斐閣。

授業計画

01. イントロダクション： 研究とは何をするか、研究倫理
02. 研究のデザイン： 課題設定、スケジュール
03. 論文を探す： 文献探索の技法とツール、論文にまつわる定量指標、文献データ管理
04. 論文を読む： 論文の全体構成、押さえるべきポイント、読読結果の整理
05. 問いを立てる： リサーチ・クエスチョン (RQ) と仮説
06. 履修者による研究報告とディスカッション (1)： RQと仮説
07. 履修者による研究報告とディスカッション (2)： RQと仮説
08. 研究方法 (1)： 質的研究の基本的考え方
09. 研究方法 (2)： 量的研究の基本的考え方
10. 論文を書く (1)： 引用のルール、文獻リストの作成
11. 論文を書く (2)： プロットの作成と活用、論証の技法
12. 履修者による研究報告とディスカッション (3)： 研究計画
13. 履修者による研究報告とディスカッション (4)： 研究計画
14. 履修者による研究報告とディスカッション (5)： 研究計画
15. 全体のまとめ： 課題フィードバック、今後の研究活動に向けて

授業計画は、履修者の人数や関心に応じて変更の可能性がある。詳細は、別途案内する。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- <予習>
資料を通読し、その授業回ごとのトピックやキーワードを確認しておくこと。30分程度。
<復習>
授業内容を自身の研究活動に関連づけて整理すること。また、授業内で紹介する関連文献を読むこと。合わせて90分程度。
これらのほか、授業内での研究報告や期末レポート課題に関連する取り組みとして、合わせて30時間程度を要する。総合すると、授業全体として60時間程度の準備学修を想定している。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業では、経営管理分野において、問題意識にもとづいた理論的・実証的検討を行うことができるような研究能力や課題解決能力を養う。これにより、修士論文の完成に向けた歩みを着実に進めることができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- (1) 教員・履修者、および履修者同士でのディスカッションを口頭で行う。積極的な参加を期待する。
- (2) 資料の共有には、Zoomおよびオンラインストレージを活用する。
- (3) 授業内での研究報告は、PowerPointまたはWordを利用して実施してもらう。

実務経験の有無及び活用

備考